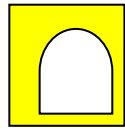


日吉台地下壕保存の会会報



第157号
日吉台地下壕保存の会

2024年度総会のお知らせ

副会長 亀岡敦子

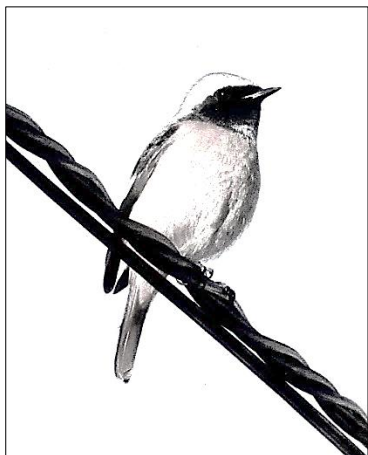
2020年に入り、「新型コロナ」という得体のしれぬ病気が、世界中を覆い、原因もよくわからず、それ故に治療法も予防法も見つからないまま、何十万、何百万人の人々が亡くなりました。日本でも多くの死者が出ました。学校・会社はオンラインとなり、高齢者は家にこもりました、とにかく「人と人が会うこと」が感染の原因という、人間性否定のウイルスで、形容しがたい不安感のなか、人は次第に優しさを捨て始めました。

日吉台地下壕保存の会の活動も停滞し、見学会や講演会、戦跡めぐりや展示会も中止や、縮小をせざるを得ませんでした。しかし、総会は続けなければなりません。1989年4月、発会式を兼ねた第一回総会が開かれて以来、年4、5回の会報発送と、総会は中止したことがなかったからです。

「会報を出すことと、総会を開くこと」この2点が、発足時の永戸多喜雄会長を中心とする運営委員共通の思いであったそうです。歴代の会長をはじめ運営委員もそれを引き継ぎ、大切にしてきました。

そこで、対面総会を実施できなかった2020・2021・2022年の3年間は、会報を活用しての紙上総会という形をとりました。昨年は、講演会こそ開けませんでした、4年ぶりに対面での総会を開催できました。会報についても、活動に制限はありましたが、充実した内容であったと思います。

このようにして、なんとかコロナ禍を乗り越えて、2024年度総会は5年ぶりに、従来通りの講演会と総会の二本立て開催が決定しました。講師は一橋大学名誉教授で、日本軍事史研究の第一人者の吉田 裕氏。演題は「戦争体験の継承-現状と課題を考える」です。私たちの活動の目指すところと問題点を考える良い機会となるでしょう。6月の日吉キャンパスは緑が溢れています。皆さまのご参加をお待ちしています。



冬の渡り鳥 ジョウビタキ

【目次】

- 巻頭言【1-2p】** 2024年度総会のお知らせ 副会長 亀岡敦子
- 感想文【2-7p】** 日吉台中学校生徒の出張授業感想文 (2023.5.15)
慶應義塾大学経済学部留学生日本語クラス感想文 (2023.10.20)
- お知らせ【7-8p】** 第29回2024平和のための戦争展 in よこはま
- 連載【8p】** 海外の戦跡めぐり(26)奉天(瀋陽)・中国 運営委員 佐藤宗達
- 書籍紹介【9p】** 副会長 亀岡敦子
- 連載【10-12p】** 日吉海軍・設備アレコレ(38)
寄宿舎の建築としての特徴と海軍・米軍の改造 運営委員 山田 譲
- 報告【12-13p】** 相模陸軍飛行場と愛川町郷土資料館 運営委員 岸本 正
- 寄稿【14p】** 日吉台海軍地下壕ボランティアガイドをはじめて ガイド 秋山正則
「ガイド」をさせていただいて ガイド 川村せい子
- 執筆ノート【14-15p】**
『悼むひと』元兵士と家族をめぐるオーラルヒストリー
運営委員 遠藤美幸
感想文 運営委員 山田 譲
- 活動の記録【16p】** 2024.1月~4月

2024年度 総会のお知らせ

日時：2024年6月15日（土）午後1時～4時

会場：慶應義塾日吉キャンパス 来往舎シンポジウムスペース

スケジュール：

(1) 講演会：時間 午後1～3時 講演内容：戦争体験の検証—現状と課題を考える

講師 吉田 裕（よしだ ゆたか）氏プロフィール

1954年11月2日、埼玉県生まれ。一橋大学名誉教授、東京大空襲・戦災資料センター館長。日本近現代政治・軍事史専攻。南京事件調査研究会、日本の戦争責任資料センターなどの創設にかかわる。主著に、『昭和天皇の終戦史』（岩波新書、1992年）、『日本人の戦争観』（岩波現代文庫、2005年）、『アジア・太平洋戦争』（岩波新書、2007年）、『兵士たちの戦後史』（岩波現代文庫、2020年）などがある。『日本軍兵士』（中公新書、2017年）で「新書大賞 2019年」を受賞。

(2) 総会 時間 午後3時～4時

議案 2023年度の活動および会計報告など

2024年度の役員・予算・活動案など

感想文**日吉台中学校生徒の出張授業感想文（2023年5月15日）**

講演のテーマ：日吉台地下壕・特攻兵の話・日吉地区の古代遺跡

昨年5/15（月）、日吉台中学校体育館にて出張授業を行い、参加された2年生360名より沢山の感想や質問をいただきました。156号（前号）にて質問の部分について、保存の会からの回答を含めご紹介しましたが、今回は感想文の一部を紹介いたします。

◇なぜ昔の日本は、特攻しかできなくなっている状況なのに戦争で負けを認めなかったのかが気になった。日吉には、思った以上に歴史的なものがたくさんあるのに驚いた。モールス信号は聞き逃したときはどうしていたのか気になった、

◇戦争についてあまりくわしく調べたり聞いたりする機会が今まで無かったので、とても学ぶことができました。日本は世界的に見るとものすごく平和なのですが、今と昔で色々と違うんだな、と思いました。日吉も空襲を受けたと聞いた時は、とてもビックリしました。戦争はとても怖く、その時の人々は本当に大変だったんだなということもあらためて知ることができました、今回はこのような機会をいただき、本当にありがとうございました。

◇戦争があつて、大変だったのは、知っていたのですが、日吉台小学校も、被害にあつたのは、知りませんでした。なので聞いていくうちに、まだまだ、知らないことだらけだったんだな、と、実感しました。そして思ったことがあります。戦争について、知らない子と、知ってる子、全員とはいいいませんが、思いやりの差があるんです。知っているからこそ行動することも、かわるんだな、それだけ、すごい話を、きかせてもらえたんだな、と思い、うれしかったです。話、ありがとうございました！

◇私は、**演劇部**の公演、朗読劇を、今練習している物含め、2回行ってきました。その際、様々な戦争中のお話を聞きました。そのため知っている事が多く、今回で、もっと理解を深められたかな、と感じます。モールス信号の音を聴いて、心が痛んだと

同時に、これを聞いていたトップ、上層部の方々ほどの様な想いがあったんだろう、と感じました。あの戦争中なら、心が壊れるのも無理はない気がしました。今回のお話を通して学んだ事を、これからの世界の考えて行く時、思い出そうとおもいます。今回はありがとうございました。

☆注：演劇部 日吉台中学校演劇部は、毎年「平和のための戦争展 in よこはま」に朗読劇で参加。日吉台地下壕保存の会も展示で参加しています。

◇昨日の平和講演会を聞いた時に思ったことで、少し知っていたけれど地下のことはあまり知っていなかったもので、とても参考になりました。自分たちが生まれる前にいろんなことがあったんだなと深く思いました。一日一日を大切に生きていきたいとおもいました。ありがとうございました、

◇平和講演会を聞いて最初は横浜や東京などで自分たちの町にはあまり関係の無いことだと思っていました。しかし僕たちの日吉という町にも地下壕などの遺跡が多く残っているので、とても身近でもう二度と起きて欲しくないなと思いました。特に印象に残っていたのは特攻です。死ぬと分かっている敵につっこんでいくのはすごい心の持ち主だなと驚きました。

◇戦争のひさんさは知っていたけれど、日吉にも空襲被害がおきたりなど意外にも身近でおどろきました・・・また、貝塚などがあると知ってこちら辺の地域は歴史があふれる地域なんだなと思ったし、どんどん日吉の歴史のことを地域の人に知ってほしいなとおもいました。きのうはありがとうございました！！

◇戦争は、東京などの所を集中して空襲していたと思っていました。実際は、このあたりでも、そういうことがたくさんあったのだと知りました。回天や桜花などの特攻兵器などの当たるわけのない攻撃などをしていたことから、とても追い込まれていたのだと思いました。こういうことを二度と起こしたくないと感じました。

◇特に印象に残ったのは、モールス信号の音声です。ピーという長い音がしばらくつづいたかと思うと、プツツと途中でとぎれてしまいました。戦争は、たくさんの人々の命をうばったのだということを改めて感じました。そんなことが、今、この時代でもおきているというのが、ありえないと思いました。戦争は私たちからとおいところにあると思いがちですが、決してそんなことはないのだと思います。一刻もはやく、戦争がおわってほしいです。

◇人間魚雷回天に乗り、自らの命をたっつぶつかりに行くというのは、とてもこわいはずなのに、やっていた人はすごいと思いました。戦争がおきている中で地下壕を作っているのはすごいと思いました。地下なので電波は大丈夫だったのか気になりました。歴史を勉強して知っていたこともあったけど、それをこえる戦争のひさんさを知って胸が痛みました。改めて今私たちがこうやって何もなくて過ごしているのは幸せなんだなと感じました。また今この時も戦争によって苦しんでいる人がいることを、他人事では無いとおもいました。わざわざありがとうございました。

◇平和記念講演会を聞いて改めて戦争があってはならないものなんだなあと感じました。またはじめて日吉も空襲があったと知り、怖いなと感じました。特に特攻部隊の人の話は心に残っています。日本は敗戦したけど、先進国になったり、被爆国だったり珍しい国だと思います。先進国の立場から原爆の怖さ、戦争の怖さを世界中に教えていったらいいと思います。

◇日吉にこんな防空ごうがあることを知って、身近にも戦争のこんせきが残っているんだと思いました。特攻隊の話はものすごく残念な話でした。僕はこの戦争を次の世代にも知ってもらいたいと思いました。なんで戦争というのは起きてしまうのか本当に疑問に思っていました。今回は本当にありがとうございました。これからも頑張ってください。

◇日吉の町にも地下壕があり、日吉台の周辺でも空襲のせいで、多くの方が命をおとした事をして、他人事ではないと思いました。自分は実際に体験していないからといって、何も考えないのではなくて、どうすれば戦争が無くなるかなど、世界平和の為に自分の事として考えていきたいと思いました。改めて、昨日の講演会を受けてみて、おそろしい戦争だったと思いました。

◇昨日、平和講演会を聞いて、今普通に平和にすごせているのは幸せなことなんだなと思いました。昔は大学生とかも戦争に出たりしてて、勉強とかも出来なかつただろうなと思って、勉強嫌い、や勉強なんてやりたくないと思っているけど、勉強したくても出来ない人がいたと知ったので、毎日がんばって勉強にはげみたいと感じました。そして今平和に過ごせているのは昔の方々のおかげなので、一日一日を大切にしていきたい。

◇平和講話を聞いて、ここのあたりや、日吉、みのわの所まで空襲などの被害があり、近くにある日吉の丘公園には、地下壕があり、自分たちが戦争を経験していなくても、身近な所にたくさん、戦争をしたあとなどがあることが分かり、戦争で、ここまで広く被害がひろがってきていて、悲しかったです。他にも、人が1人特攻兵器に乗り、自分の命をぎせいにして、国の戦争のためにそこまでがんばるのかとおどろいた。

◇素てきな講演、本当にありがとうございました。正直、もう時代が変わったんだし戦争とか私たちに関係ないでしょって思ってたけど、なりたくもないのに兵士にさせられ、苦しい思いをした人々がいて、ここら辺も戦場だったんだと思うと本当に他人事じゃないなと感じさせられました。本当に貴重なお話を聞かせて頂きました。

◇戦争って自分達には、もう関係ないことだと思っていたので、こんなに身近に跡が残っているなんておどろきました。魚雷に乗って、モールス信号を送った、時のモールス信号をきいて、「ツー」の後、音がぷつと切れて、これを何回も聞いた人を想像すると、戦争で死んでいい人なんて誰もいないんだなと思いました。中学生でこんな貴重な経験ができて良かったなと思いました。ありがとうございました。

◇平和講演会で地下壕の事や戦争、特攻兵器の話聞いて、戦争のことを忘れないために、歴史について知ることは大事だと思いました。また、実際に戦争を経験した人に聞いた話は語り継いでいくことが戦争を風化させないためにも大事だと思いました。

◇自分が小学生の時も聞いたことがあったことも多かったけど、全く知らなかったことの方がもちろん多くあったし、しっかり興味深く話を聞くことができました。もっと自ら調べてみたかったりとか、今回学んだことを身近な人に教えてあげたいなと、とても思いました。出身小学校が空襲時、どんな役に立っていたか、昔はどういう場所だったのかも、しっかり聞くことができたので、もっと興味深く聞くことができました。これからの平和学習にやくだてていきたいです！！

◇先日の講演会では、ありがとうございました。質問なのですが、大学でまともに授業が受けられなかったように、小学校、中学校で授業内容などに何か影響はありましたか？教えてもらいたいです。あらためまして、先日はどうもありがとうございました。

◇「戦争」と聞くと、原爆の被害を受けたところなどを思い浮かべて、今まではそこまで身近に感じたことはなかったけど、今回の平和講演会を聞いて、誰もが知っているような特別大きな被害を受けたところや、大きな戦場だけが戦争ではないということに改めて感じ、巨大な地下壕が今も残る日吉も、司令部などがあって1つの戦場なんだと思いました。平和であること大切にしたいと思いました。今回はありがとうございました。

◇戦争は自分には全く関係ない、遠い昔の出来事だと思いました。でも、戦争によってこの町が変わっていたのを聞いて、戦争は人ごとではないのだな、と思いました。前、社会の先生に、歴史のうら側にはみんなの先祖が生きている、という話を聞きました。僕のひいおじいちゃんも戦争に行きました。そんな僕について知る機会を作ってください、本当に感謝しています。

◇前までは歴史の教科書を見て、ただおぼえるだけだったけど、今回のお話を聞いて興味がわいたので意欲的に学べるようになりました。特に、日吉の地下のことや、岩井さんの話は教科書にもでてきたり、身近にあるものだったりしたので、自分でも調べてみようと思いました。お話してくれてありがとうございました。

◇昨日は平和講演をありがとうございました。私は日吉台小学校出身なので、空襲で全焼したことや、防空壕があったことを知り驚きました。日吉の丘公園もよく遊んでいたもので、とても興味がわきました。こんなに身近に戦争を感じる場所があり、歴史ある町に住んでいると分かり、嬉しかったです。Q：日吉台小学校で戦争のなごりのようなもので残っているものはありますか？

◇平和講演会を聞いて、戦争をより身近に感じました。私達の住んでいる日吉、綱島にも、歴史などで習った空襲がおきていたと知り、おどろき、不安になりました。これから戦争がおこらないようにするために私達にできることがあるのか、調べてみたいと思いました。また、地下壕をつくるには、どのくらいの時間がかかったのか教えて欲しいです。平和講演会、とても勉強になりました。ありがとうございました。

◇今はもう全くないと思うような戦争も、地下壕のことを考えると確かに戦争があったことが分かって悲しいと思いました。質問です、日吉台地下壕は戦争が終わってから使われたことはありますか？

◇自分のうまれてなかった時代に、どのような出来事があったのかを知ることができました。自分の命をすてて戦うようなおそろしいこうげきの手段があったりしたことにも、おどろきました。また戦争の時につくられたものが今でもとてもみじかな所にあることをはじめて知り、むかしの出来事だと思っていた戦争が、すごく身近にかんじられ、平和の大切さについてよく考えることができました。

◇こんな近くに地下壕があったり、戦争がおきていたと知り、とてもおどろき、他人事だと思ってはいけなとあらためて感じました。矢上小学校からきたけど、矢上小の所の古墳は、小さいと思ってたので、話を聞いておどろきました。特攻兵器のつくりやモールス信号のツアが最後消えるのを聞き、とてもおそろしくなりました。とう

じの人は兵器がかんおけだと分かっている乗るなんて想像もできないくらい、こわかったらうなと思いました。貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。

感想文

慶應義塾大学経済学部留学生日本語クラス感想文

(2023年10月20日)

◇電信室。作戦室 母国の軍人として務めた経験があるため、とても印象に残った場所です。軍人だった時も戦争の恐ろしさは感じていましたが、留学中のたこくの戦争遺跡を見学して色々なことが考えられた貴重な時間でした。現代史で重要な遺跡を見学することができて、とても良い時間でした。上でも話しましたが、戦争の恐ろしさをよく知っているからこそ、感じる部分が多かったです。もっと多様な人がこの見学をして、戦争の残酷さについて学び、今より平和になることを祈ります。

◇日本は私の母国を支配した国であり、その時期は1915年～1945年です。日吉の地下壕はちょうど太平洋戦争の時建設され、そこで行われた軍事作戦などをそうぞうしていたら、戦争の残酷さを再び感じました。全般的に充実した内容の見学だったと思います。希望としては、大学側がもうちょっと広報してほしいです。

◇印象に残ったのは最後に皆が集まって特別攻撃隊の自爆する前発信した電波を聞く場面です。何十年前の声ですが、その絶望さを実感しました。我々人間は戦争を再び起こさないように工夫すべきです。ボランティアさんたちの詳しい説明のおかげで、日吉台地下壕について深い認識をえました。戦争の恐ろしさとそれがもたらした影響の甚大さを再び知り、平和の重要性を認識しました。

◇電信室の説明と流れた神風の電波音声は大変印象に残った。見学の流れ、説明はよかったが、細かい用語について「船をほとんど失ってしまいました」のような、やや「日本軍」立場の用語をもっと中立的な「撃沈された」などにかえたほうが、特に中国や東南アジアの方々に向かって説明する場合は大事かもしれません。見学会などの団体による保護活動の説明も聞きたいです。

◇地下壕を一周見学しましたが、距離的には短くないとはいえ、狭く暗い空間で連合艦隊の方々が衣食住から仕事までのすべてをされていたと思った時、当時の外部不安な環境に加えて、厳しい生活をされていたと想像できました。自分の身近に戦争遺跡があり、今は生活できている場でも、当時は戦争に囲まれていた環境であったことを、見学全体を通して感じました。そういうショックを受けました。

◇特に印象に残った場所は司令部である。司令部の壁も他の所のと違い、整った感じがした。そこでの説明もとても丁寧で勉強になったと思う。初めてこのような地下壕に入ってみた。そこで歩いていた時に説明を聞きながら戦時に人々はどのようにそこで生活していたかを想像した。戦争にもたらされた危険、不安と不便はどのように生活を影響したかがわかり、平和のよさと大切さを痛感した。とてもいい経験になったと思う。どうもありがとうございました！

◇飛行機に乗っていた特攻隊が送った信号が日吉の地下壕で確認できたということが印象に残りました。地下壕関係者の方々の説明が非常に理解しやすく良かったです。

◇まず、地下壕の大きさに驚かされました。そして、電信室の見学で特別攻撃隊が船に衝突する時に信号を送る事を知り、戦争の怖さを知りました。詳しい説明ありがとうございました。

◇作戦室、電信室、暗号室が並んでいて、暗号が通信員に聞き取られ、解読された事がわかっておもしろかったです。地下壕といってもちゃんと個室があり、排水、空気の交換、安全保障システムに感心しました。戦争は悪いことだが、こんな日本軍の知恵に溢れる戦壕が残されてよかったです。

◇特攻隊の戦闘機が空母で自爆する時の発信音です。実物を見たり触れたりすることで学んだ歴史の知識はやはり単純に本を読むよりは頭に定着しやすいです。

◇司令長官室のコンクリートが他の所より良くなっていた事が印象に残った。特攻隊の人はモールス信号コードを地下壕に送ってきて、その信号が止まった瞬間で隊員が亡くなったということ象徴した。毎日このような信号を受けている地下壕の人も非常に悲しいと感じているのではないかと思います。

◇印象に残った説明は信号に関する部分だ。特に、実際兵士が送ってきた音が印象的だった。日吉台地下壕を実際に見てよかった。今日は時間の問題ですべての場所が見られなかった。今度は見学できなかった所まで見学したい。

◇上から光が入るところ、爆撃によって上に穴があいて光が入ってくるのが印象に残った。歴史がある地下壕を見てよかった。戦争中の痕跡がしっかりとこっぴけてよかった。

◇特攻隊の最後の通信を日吉で受けていたことに驚きました。4年間日吉（と矢上）に通いましたが地下壕の存在は全く知りませんでした。戦争の愚かさ、恐ろしさを伝えるために大学側ももっと努力してほしいと思います。（教員）

お知らせ

横浜大空襲から79年—

「第29回2024平和のための戦争展 in よこはま」

横浜展 吉沢てい子

5月29日の横浜大空襲の日にあわせて開催してきた戦争展は、今年で29回目を迎えます。今年、5月26日（日）「特別企画・講演と朗読劇」、5月31日（金）から6月2日（日）「展示」を、6月1日（土）「戦争・核被害体験を語り継ぐ」企画をかながわ県民センター（横浜駅西口）で開催します。

今年、横浜大空襲から79年、ヒロシマ・ナガサキ被爆79年、ビキニ被爆70年。そして今、ガザでのジェノサイドが起きています。

79年前の横浜大空襲で8千人以上もの命が奪われ、当時の市民の約半数の31万人が被災しました。そして今、ガザでは、イスラエルによる攻撃で3万3千人を超える命が奪われ、110万人が壊滅的飢餓に陥っています。一日も早い停戦が求められています。

戦争展が戦争の悲劇を忘れず繰り返さず、平和に貢献できるものにと願って企画しました。具体的には、5月26日の「特別企画」は、「日本とガザ・パレスチナの平和と共存」と題して、元日本中東学会会長、お茶の水女子大学名誉教授の三浦徹さんに講演を、5歳で横浜大空襲を体験した金子光一さんのお話、日吉台中学校演劇部には

「安全地帯にいる人の言うことは聞くなー戦場の軍人たちが残した言葉と現在」の朗読劇をしていただきます。

5月31日（金）から6月2日（日）までの「展示」は、横浜大空襲から79年、猛火の横浜、焼け跡の市街、空襲体験画、横浜の戦跡、日吉台地下壕、船と戦争、アジアでの戦争、教科書、占領下の横浜、横浜・沖縄の米軍基地、米軍機墜落事件、被爆79年、原発事故、憲法、平和のバラ、WFPなど展示します。

6月1日（土）の「戦争・核被害体験を語り継ぐ」企画は、「Y校OGが見つめ直した横浜大空襲の大岡川」と題してグローカリーに、被爆二世の山本緑さんに「ゴジラはどうして海から現れたのか」と題して、ビキニ事件と原爆の語り部活動について、神奈川学園中学・高等学校には「神奈川とマーシャルを繋ぐ〜デジタルアーカイブに取り組んで」を報告して載せます。

戦争のない核も基地もない、命・環境・地球が大切にされる世界をどのように築いていけるか、若い人たちとともに考え平和な未来のために役割が果たせる戦争展にしたいと願っています。

連載

海外の戦跡めぐり(26) 奉天(瀋陽)・中国

運営委員 佐藤宗達



張学良銅像（奉天・張帥府）

1905（明治38）年9月、日露戦争の講和条約：ポーツマス条約が締結された。日本の朝鮮における権益の確認、関東州の租借権及び長春・旅順間の鉄道の譲渡、樺太南半分の割譲などを得たが賠償金は得られなかった。これを機に・・・

- (1) 旅順に関東都督府が設置され、その後1919（大正8）年関東庁へ改組され、陸軍部が独立して関東軍となり日本の満州支配の中核的役割を担った。
- (2) 南満州鉄道（満鉄）が設立され、譲渡された東清鉄道支線を基とし大連・長春間の本線といくつかの支線の運行の他に炭鉱・港湾等の経営なども担当した。
- (3) 鉄道警備隊の駐屯は認められたので1kmごとに見張り小屋・塹壕を設置、兵士15名配置したので総員約1万人になった。

満州における権益拡大を狙う日本は奉天派軍閥の総帥・張作霖を後押しして勢力を伸ばそうとした。張作霖は東三省を支配下に置き、1926年12月には北京を掌握、翌年陸海軍

大元帥に就任した。1928年4月国民革命軍司令官蒋介石は北伐（北方の軍閥を打倒する狙い）を再開、不利となった張作霖は奉天へ撤退することになった。関東軍・高級参謀河本大作大佐は日本の意のままにならない張作霖を暗殺し、これを機に軍事行動を起こし、一気に南満州を関東軍の手で占領しようとした。6月3日北京を出発した列車が4日朝奉天のクロス鉄橋を通過する時に日本軍が仕掛けた爆薬を操作して列車を破壊した。張作霖は重傷を負い邸宅である張帥府に担ぎ込まれ息を引き取った。

一方奉天軍は日本の意図を見抜いて、軍の行動を抑えてしまったので関東軍との武力衝突にはならなかった。張作霖爆殺事件は「満州某重大事件」と呼ばれ事件の首謀者処罰をめぐる扱いが紛糾して田中義一首相は辞任に追い込まれた。関東軍は長男・張学良を懐柔しようとしたが張学良は蒋介石の指示に従い関東軍に不服従、対立した。やがて関東軍は1931年9月、満州事変を起こし、清国最後の皇帝・溥儀を擁立して満州国へと突き進んだ。

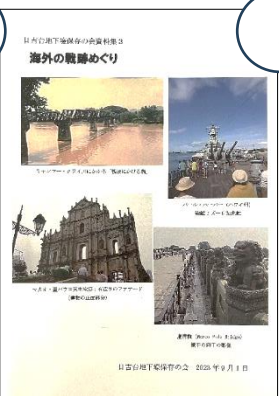
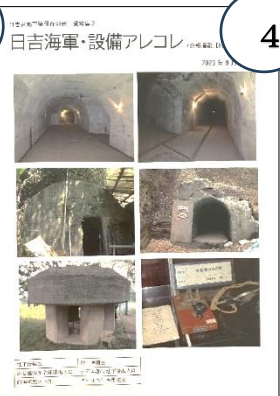
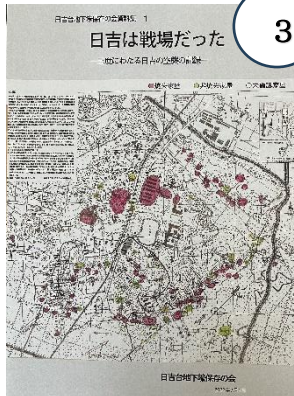
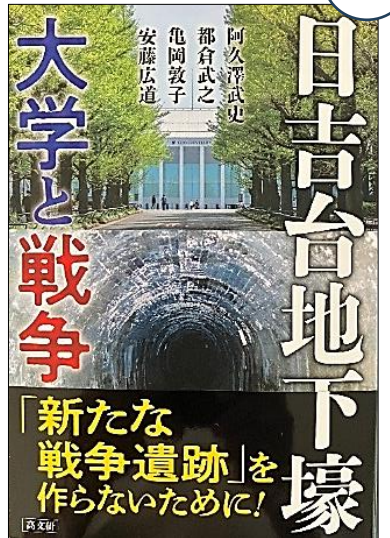
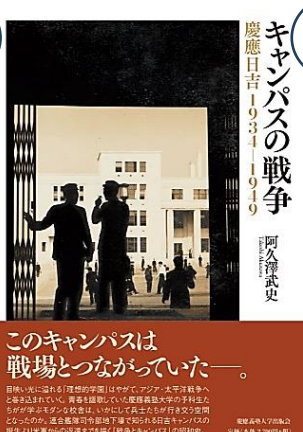
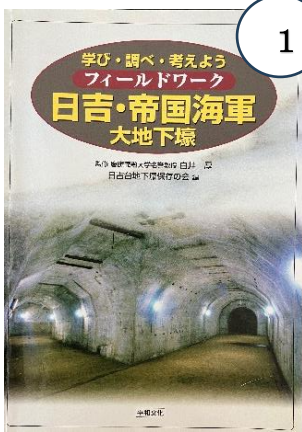
書籍紹介

日吉台地下壕保存の会の会員が、2000年以降に、こんな本を執筆しました（下記が表紙です。⑧はP-15に記載）①～⑤の5冊は自費出版なので、書店やネット購入はできませんので、希望の方に販売します。⑥～⑧の3冊は、書店やネットでの購入は可能ですが、こちらも希望の方に消費税抜きで販売します。購入方法は以下の通りです。

☆ご希望の書名と冊数を葉書に書いて下記宛にお送りください。

223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 亀岡方 日吉台地下壕保存の会

☆書籍と振替用紙に書籍の金額と送料を記入したものをご送付します。



- ① 『フィールドワーク 日吉・帝国海軍大地下壕』
日吉台地下壕保存の会 編著 頒価 600 円
- ② 『戦争遺跡を歩く 日吉』日吉台地下壕保存の会 編著 頒価 300 円
- ③ 『日吉台地下壕保存の会資料集1 日吉は戦場だった 三度にわたる日吉の空襲の記録』日吉台地下壕保存の会 聞き取り・編著 頒価 500 円
- ④ 『日吉台地下壕保存の会資料集2 日吉海軍・設備アレコレ』
山田 譲（日吉台地下壕保存の会運営委員）編著 頒価 500 円
- ⑤ 『日吉台地下壕保存の会資料集3 海外の戦跡めぐり』
佐藤宗達・小山信雄（日吉台地下壕保存の会運営委員）編著 頒価 500 円
- ⑥ 『キャンパスの戦争-慶應日吉 1934-1949』慶應義塾大学出版会 2,023 年
阿久澤武史（日吉台地下壕保存の会会長） 本体価格 2,700 円
- ⑦ 『日吉台地下壕 大学と戦争』高文研 2023 年
阿久澤武史・都倉武之・亀岡敦子・安藤広道 本体価格 1,900 円
- ⑧ 『悼むひと』生きのびるブックス 2024 年
遠藤美幸（日吉台地下壕保存の会運営委員） 本体価格 2,300 円

連載

日吉海軍・設備アレコレ【38】

寄宿舎の建築としての特徴と海軍・米軍の改造

運営委員 山田 謙

日吉の学生寄宿舎の南寮と浴場棟は横浜市の歴史的建造物に認定されています。これにより南寮は横浜市の補助金を得て、リノベーション（修復）工事をおこない2012年に学生寮として再生しました。それまでは中寮が学生寮として使われていたのですが、寮生は南寮に移り中寮は閉鎖されました。南寮の外観はできる限り復元され、建物内外のタイルも張り直されました。ただし寮生の部屋は1人1室から改造され、2室をつなげて3人部屋になりました。

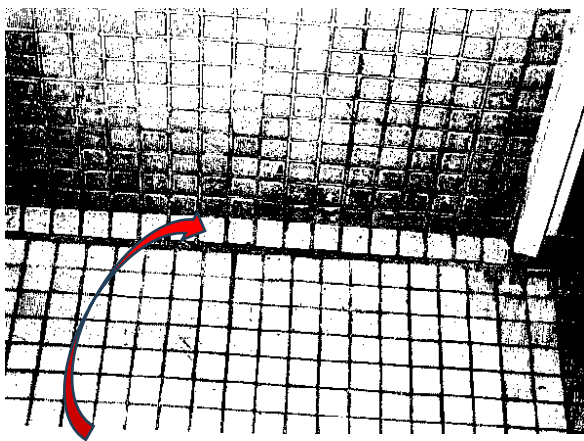
この寄宿舎と浴場棟は、1937年に完成した谷口吉郎の初期の意欲的な設計建築です。私たちはリノベーション工事前の2011年10月1日に、日吉キャンパス施設環境担当課長の名淵久芳氏に案内していただき説明を受けました。それによると「建物の構造はしっかりしていて問題ない。ただ箱型の構造が丈夫すぎて大地震で柱部が剪断破壊をおこす可能性があるので手をいれる。」とのことでした。

他方、浴場棟は手つかずであいかわらず廃墟状態です。北寮もずっと廃墟でしたが、中寮も無人化して12年たつと外壁のタイルがはがれるなど痛みが目立ちます。昨年、慶應大学は浴場棟、北寮、中寮の痛みがこれ以上進まないように保全工事をしました。これが寄宿舎の現状です。

今回はこのリノベーション工事に聞いた寄宿舎の建築としての特徴と、戦時中の海軍と戦後の米軍による改造のお話です。

① 全面タイル張り

この建物の外観で際立っているのは外壁全面のタイル張りです。工事を担当した株式会社三菱地所設計の細見聡氏、森下昌司氏の説明（2012年12月8日、日吉キャンパス独立館での横浜市都市デザイン室主催講演）によると、「50角モザイクタイル」という規格だそうです。タイル47×47mm、目地幅3mmで、今の標準品（タイル45×45mm、目地幅5mm）とは仕様が違うそうです。陶器質で色ムラ・つやムラがあり自然な風合いが出るように石炭で焼成してあるのを再現したそうです。このタイル張りはすべて職人技の手作業です。



斜め45度に張り付けたタイル

タイル張りは1階廊下のフロア、壁にも使われています。普通、床面から壁を立ち上げる境界のところには腰板と言って、5～10cm位の板を当てて見栄えをよくします。しかし、これもタイルを斜め45度に張りつけて仕上げています。こういうのは、とてもめずらしい工法だそうです。

手すりやサッシ、扉の色はとても苦労したそうです。現物は錆びていて色は残っていません。写真も白黒のものしかありません。色についての記録もありませんでした。しかし検討の結果、サッシと屋外手すりは暗紫色、扉はウコン色（くすんだ金色）にしたとのことでした。

② 温水床暖房

温水床暖房も当時では、とても斬新でした。谷口吉郎は慶應幼稚舎の校舎で、これをはじめて使いました。その結果がよかったので日吉でも使いました。床下に鉄パイプの配管を一面にめぐらし、上下階の間は居室の洋服タンスの中に縦に配管されています。浴場棟のボイラー室からはトレンチ（溝）を掘って各棟に配管していました。そのトレンチの図面が残っていたそうです。



床下の配管（温水パイプ）

当時、これを「パネルヒーティング」と呼んでいたようですが、これは今の私たちが室内で使うパネル型の暖房器とは違います。床下に、大きなパネルのような形で温水パイプを蛇行するように配管しました。リノベーション工事の時に床板をはがしましたが、この蛇行型の配管が全面的に見えているスライドを講演会の時、見せていただきました。

この温水のためのボイラー室が浴場棟の下の階にあります。ここから各棟へ温水の鉄パイプが出ていて、保温のために白い断熱材が巻きつけられています。それに「南廳舎」「中廳舎」「北廳舎」「浴室」と書かれていました。海軍は寄宿舍各棟を「廳(庁)舎」と呼んでいたということです。ここは学生寮でなく海軍の建物だと言わなければなりません。

③ 1階床面の高さが外と同じ

普通、建物の床は、まわりの地面より高くなります。そうでないと雨水が部屋の中に入ってしまう。ところが寄宿舍の1階食堂の床面は屋外の地面と同じ高さなのです。台地の端の頂部という地形を計算したのでしょうか、これでも問題ないようです。これも設計上の特徴のひとつです。



寄宿舍南寮1階の床面（修復前）

④ 薄いヒサシ、すっきりしたモダニズム建築

入口玄関上のヒサシは厚みが薄く、屋上のへりに付けられているヒサシも薄いつくりです。浴場棟の丸屋根のへりの張り出しも、とても薄くつくられていて名瀬さんは「難しいつくりになっている」と言っていました。

全体のデザインはすっきりしたシンプルな形で、モダニズム建築というそうです。第一校舎の重厚で美的なデザインとは対照的です。屋内の厨房室やトイレ室の扉には、丸い窓が付けられていておしゃれな感じ。1人1室の洋間でベッド付きというのは、今のワンルームマンションのようです。トイレは共同ですが洋式便器です。これは当時、日本人には全く馴染みのないもので新入寮生は使い方を先輩から教えてもらったそうです。

⑤ 南寮長官室の改造、寮の壁に地下壕への避難口

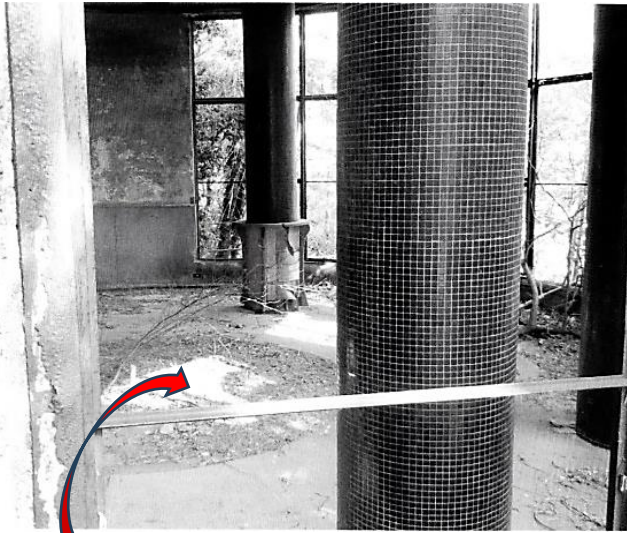
この寄宿舍を海軍は1944年9月29日から連合艦隊司令部として使い始めました。これに先立って第3010設営隊は9月1日に日吉に「進駐」し、21日から寄宿舍の改造工事をおこないました。（「第3010設営隊行動記録」）

この改造工事で南寮2階奥の3室をぶち抜いて広い長官室にしました。この長官室の隣の2室もぶち抜いて檜の立派な風呂を置きました。この風呂には兵隊が浴場棟のボイラー室からお湯を運んだそうです（元寮生・芹澤宏氏から2013年3月9日に聞き取り）。また私が見た時には3階奥も4部屋ぶち抜きになっていました。

もう一つ大きな改造は、地下壕へ降りる階段の入口に面した寄宿舍の壁に避難口を開けたことです。南寮の北側廊下の壁と、中寮の南側舎監室の壁を開口して扉を付け

ました。南寮のこの扉はリノベーション工事まで残っていましたが、今は元の壁の状態に戻してあります。中寮舎監室の外扉は今もそのままです。地下壕に降りる126段の階段は「空襲が盛んになって、上が焼けてから急に掘り出したんです。」と連合艦隊司令部機関科電機長だった菅谷源作氏は言っています（有隣堂発行「有隣」紙1991年8月10日号の座談会記事）。したがってこの避難口を作ったのは1945年5月頃だろうと思います。ちょっと先の玄関から出ればいいのに、1秒でも早く避難したかったみたいで高級将校は逃げ足が速いようです。

⑥米軍は浴場棟を将校クラブに



コンクリートで埋められた浴槽

敗戦後1945年9月6日、アメリカ軍部隊は日吉に来て7日にキャンパス全域を接收しました。寄宿舍は士官の宿舎になりました。校舎は兵士の宿舎です。その後1949年10月1日に慶應大学に校舎は返還されましたが、一部に米軍は残り完全に立ち去ったのは1957年10月30日だそうです。（『キャンパスの戦争 慶應日吉1934-1949』阿久澤武史著を参照）

この中で浴場棟が一変しました。アメリカ人は多人数で入浴しません。それで寄宿舍の中にシャワー室が設置されました。そして浴場棟の浴槽はコンクリートで埋められて平らなフロアになってしまいました。

円柱には幅のせまいカウンターが取り付け

られて、将校たちのバーラウンジ、あるいはダンスホールに改造されました。脱衣場の方も青や赤のペンキで塗られて米軍の白い星のマークが描かれました。ですのでここは将校クラブとして使われていたようです。

*そういうわけで眺望絶佳のローマ風呂は、二度と浴場に戻ることなく廃墟と化しているのが現状です。本来は学生たちが知育、体育とならぶ徳育の場として青春を謳歌するはずの寄宿舍が、南寮を除いては廃墟同然となっているのはとても残念なことです。歴史的文化財としての価値を公的にも認定し、文化的教育的施設として活用してほしいものだと思います。

報告

相模陸軍飛行場と愛川町郷土資料館

運営委員 岸本 正

博物館ボランティアとして活動をしていることもあるので、各地の資料館・博物館の展示に関心をもっています。近年では厚木市博物館・茅ヶ崎市博物館などの新規博物館が次々と開館しました。その中で15年ほど前の開館になりますが、宮ヶ瀬ダム直下の県立あいかわ公園内にある愛川町郷土資料館は、小規模ながら地域の特色に即し充実した展示がされているので注目しています。

修験の場であった八菅山や小田原北条氏と武田氏の戦いである三増合戦の歴史、かつての地場産業であった和紙・箒作り・撚糸産業、獅子舞などの芸能など、自然科学関連を含めた特色ある常設展示が無料公開されています。その中でも、現在中津工業団地になっている場所にあった「相模陸軍飛行場」に関するコーナーは、地域の戦争遺跡を伝えるものとして注目に値するものと思います。

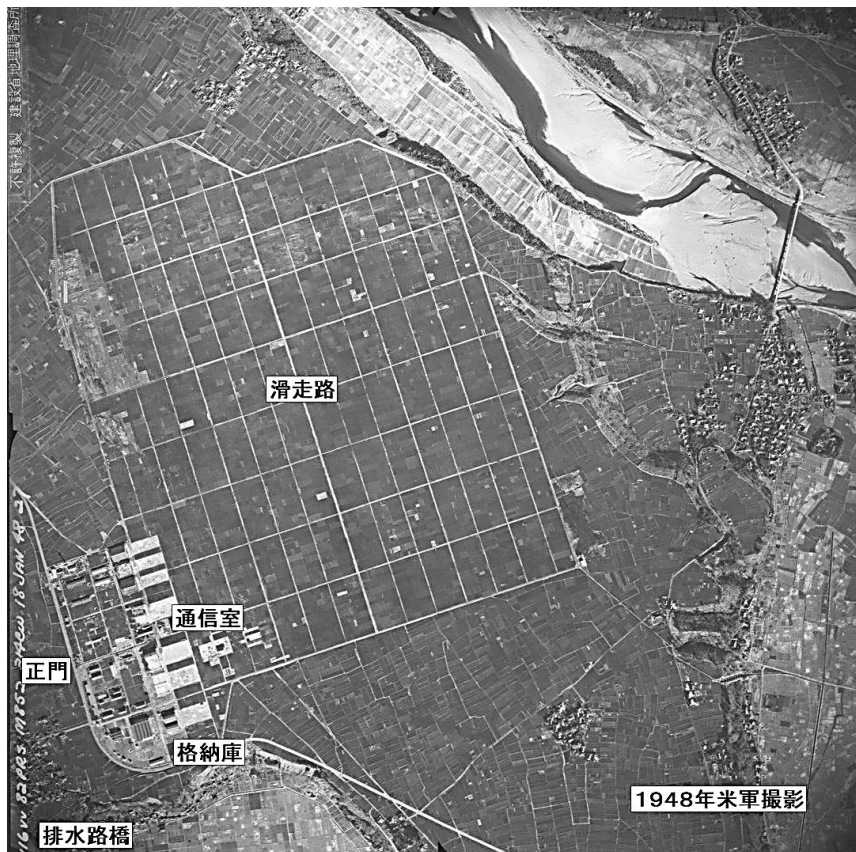
相模陸軍飛行場は「熊谷陸軍飛行学校中津分教所」とも称され1941年に陸軍が桑畑などを買収し、南北1.8×東西1.4kmの敷地に開設されました。飛行兵養成のため当初は練習機通称赤トンボなどが飛びましたが、戦況に応じて戦闘機疾風（はやて）の訓練の場として使われ、多くの若き飛行兵が飛び立ったということです。畑を整地しただけの滑走路でしたが、特攻出撃のみならず訓練中の事故で命を失った者もあつたといひます。

1961年から工業団地計画が始まり現在では、かつての門柱・通信室跡・格納庫基礎コンクリート、排水路橋などが遺っていて当時を偲ぶよすがとなっています。

愛川町郷土資料館では「戦争の記憶」展として2010年からほぼ隔年に戦争関連の企画展が催されています。元飛行兵・地域の方々からの資料提供や山口研一学芸員による聞き取り調査に基づく企画展を継続的に行っていることは貴重な取り組みと感心させられます。また、学校教育の場でも、地域の戦争を伝える活動が行われているという当会の活動とも共通する側面もあ



愛川町郷土資料館



ります。図録として『相模陸軍飛行場関係写真集』が現在まで2冊発行されています。

当会としまして、一度現地の飛行場跡や資料館を見学させていただき学習する機会を設けたいと思います。多少アクセスに難のある場所ですが、訪れる価値は大きいと思います。

寄稿

日吉台海軍地下壕ボランティアガイドをはじめて

ガイド 秋山正則

昨年（2023年）、4月からの4か月間のボランティアガイド養成講座を受ける中で、実際の見学会に数回参加しました。見学会に参加してわかったことは、ガイドの皆さんの話し方が分かり易く、要所要所での説明も理解しやすい話し方をしていることでした。また、事実をきちんと説明している話し方に、勉強の深さを感じました。最近では、このボランティアガイドは、生半可な気持ちではできない、常日頃の心掛けもなしにガイドをしていたのでは、自分はやっていてつまらなくなってしまうのではないかと考えるようになっていきます。

まだ見学者の案内を始めたばかりで、見学ルートを間違えたり、あるいは話さなければならない内容を飛ばしてしまうなど、度々のことです。また個々の場所での説明さえも自分が納得できるような説明になっていません。この4月で2年目に入ってしまったが、先輩ガイドの堂々たる話し方に近づくことは容易ではないと思っています。

見学料を払って来ていただくお客様（見学者）に対し、見学料見合いの『見学に来てよかった』という感想をどうしたら持ってもらえるのか、ということ私の課題として持ちつつ、ゆとりのある話し方ができるガイドになりたいと思います。

【ガイド】をさせていただいて

ガイド 川村せい子

昨年【日吉の戦争遺跡ガイド養成講座】に入り、定例見学会にも何度か出ておりましたら【ガイド】のお話があり、人前で話したこともないのにお受けしていました。『壁のブロック穴』『堅穴空気坑』だけと構え、いざ話し始めたら声はうわずり足は地に付かず、挙句に時間もかかり過ぎで後は小さくなるばかりでした。そんな中、見学会最後のまとめで、先輩・新人を超えて今日の良い点・改善点をお互いに話し合っておられました。こんな有難い励ましや指摘を受けられるなら少し続けてみようと思った次第です。日吉台地下壕保存の会活動には敬意が先です。学習会で「日吉は戦場だった」等の資料集や皆様の調査・研究を机の上で拝見できる贅沢な時間にも感謝です。「ほんのはじまり」という言葉もいただきました。まだまだ自分が井の中の蛙状態でおります。ふた昔も前に「えっ？慶應義塾大学に地下壕？」と、暗がりの中を降りて行った驚きを大切に、少しずつでも進められるようになりたいと思っています。

執筆ノート

『悼むひと 元兵士と家族をめぐるオーラル・ヒストリー』

三田評論 2024.3月号 (No. 1286) ビルマ戦史研究者・塾員 運営委員 遠藤美幸

もともと戦争にはまったく興味がなかったのだが、気がつけば2002年から戦場体験の聞き取りを20年以上やっている。きっかけは日本航空の客室乗務員時代にたまたま機内で知り合った拉孟（らもう）戦の元飛行兵との出会いだった。その後日航を退社し、慶應義塾大学院経済学研究科に進み、数十年の歳月を経て拉孟戦の研究者になった。当初はイギリス近代史を専攻していたのだが、ある日、あの元飛行兵から「凄惨な『玉砕』戦の史実を後世に伝えてほしい」との主旨の手紙と陣中日誌などが詰まった段ボール箱が自宅に届いた。門外漢の私は途方に暮れて指導教授に相談すると、「縁ある遠藤さんが拉孟戦の研究をやるべきです」と背中を押された。ビルマ防衛戦の「最後の砦」として策案された拉孟戦（1944年6月-9月）は、史上最悪の作戦として有名な「インパール作戦（1944年3月-7月）」に比べると知名度は低い。援蒋ルート（連合軍の補給路）を遮断するために約1300名の日本軍が中国雲南省の山上で約4万

の中国軍と対峙して全滅した拉孟戦場の実相を明らかにするために旧日本軍だけでなく連合軍側の1次史料と元兵士の聞き取りを駆使し、最終的に『「戦場体験」を受け継ぐということ』（高文研）にまとめた。この度、9年後に上梓した『悼むひと』は、拉孟戦研究をする過程で、研究者というよりも非当事者の「お世話係」という立ち位置で、長い歳月の中で戦友会や慰霊祭で出会った元兵士やその家族の諸々の感情を掬い上げたオーラル・ヒストリーの歴史実践である。実はビルマ戦以外の中国戦線やレイテ沖海戦などの戦域も含まれている。靖国神社に足繁く通う元中隊長は戦友会では「軍隊も自衛隊もいない！」と放言する。慶應の元学徒兵の意外な語りは実に痛快だ。父から受けた暴力（言）でいまだ心病む遺族もいる。沈黙にも耳を傾け、嘘や矛盾に満ちた語りも否定せず傍らでひたすら聴き続けた。元兵士らが何を思って戦後を生きていたのか。戦友会や慰霊祭に集う元兵士や家族（遺族）の思いも一枚岩ではない。戦争は過去のものではない。私たちが「終わらない戦争」を生きていることに気づくだろう。

感想文

私たちの会の聞き取り活動の第一人者、主婦研究者の遠藤美幸さんの2冊目の本が出版されました。私はこの本の表紙の絵（高木大地氏画）に魅入られてしまいました。どうやら南方の密林の木の葉の隙間から見える闇夜の満月らしい。月の右側の葉の上には一匹のアリがいる。他にも二匹いる。タッチからするとこの絵は油絵のようです。一面の濃緑の葉と、左側には木の実がみえる。この実はまだ緑色で、とても食べられそうにない。私は高木氏のことは何も知らないし、遠藤さんからも表紙絵のことは何も聞いていません。しかしこの絵は、遠藤さんのオーラル・ヒストリーを読み心に刻んで、非業の死を遂げ、あるいは死地を脱して生還した元兵士が、ビルマの戦地で見たであろう満月を描いたにちがいないと思いました。元兵士やその妻子への遠藤さんの聞き取りの数々は、まさにリアルな戦場体験です。そして今の私たちに、日本軍の戦争の何たるかを迫ってきます。先日の見学会で、遠藤さんは地下の作戦室の話を担当しました。これは遠藤さんしかやらない話ですが、本書11章に書かれている岩井兄弟の特攻体験の話をしました。この日の見学者は将官クラスをふくむ元自衛隊幹部で、現在は民間会社の顧問をしている人たちが多数でした。それで遠藤さんは打ち合わせの時、「天皇の戦争責任の話をして大丈夫ですかね」と聞いてきたので、私は「いつも通りにやってください」と言いました。何の話をするのかなと思いましたが、変に引いてしまう必要はないと思いました。遠藤さんは地下作戦室での話の最後に、「岩井忠熊さんは歴史学者として『天皇には戦争責任がある』と話していました。」と言いました。私は反発が出るかな？と思ったのですが、逆に話し終わった遠藤さんに対して拍手が起きました。元特攻隊員の本心からの話に対しては、軍人（自衛隊幹部）は軍人なりに共感するのだなと思いました。しかしそれ以上に、やはり遠藤さんが積み重ねてきた元兵士への聞き取り体験に裏打ちされた真摯な言葉の重みなのだと思います。こういう言葉の重みは知識ではありません。学者の調査研究とはちがう、主婦研究者ならではのものがあるのだと思います。あらためて、この本の表紙の闇夜の月の光はいいなあ…と思いました。（たまたまベートーベンの「月光」ソナタを聞きながら書きました。）

運営委員 山田 謙

8



活動の記録 2024年1月～4月

- 1/10(水) 定例見学会
- 1/11(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
- 1/18(木) 会報156号発送(来往舎小会議室)
- 1/25(木) 地下壕内清掃について、地下壕内点検
- 1/26(金) 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(桜木町ユーラシア協会)
- 1/27(土) 定例見学会 37名
- 1/30(火) 地下壕見学会 慶應湘南藤沢高校 51名
- 2/1(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
- 2/3(土) ガイド学習会(日吉地区センター中会議室)
- 2/7(水) 定例見学会 26名
- 2/16(金) 横浜市生涯学習文化財課訪問 日吉台地下壕文化財認定について(横浜市庁舎)
- 2/22(木) 地下壕見学会 慶應義塾高校(沖縄旅行事前見学) 15名
- 2/24(土) 定例見学会 44名
- 2/26(月) 地下壕見学会 田園調布学園高校 20名
- 2/27(火) 地下壕見学会 慶應義塾高校 午前31名 午後26名
- 3/7(木) 運営委員会(来往舎小会議室)
- 3/13(水) 定例見学会 26名
- 3/18(月) 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(かながわ県民センター)
- 3/23(土) 定例見学会 33名
- 3/24(日) ガイド学習会(日吉地区センター別館)
- 4/4(木) 運営委員会(来往舎小会議室)

○地下壕見学会について：定例見学会は毎月2回 第2水曜日・第4土曜日午後が基本です

○学校関係(学術・教育)の見学は定例以外にもご相談で実施しています

○お問合せ・申込みは見学会窓口まで



第一校舎と桜

連絡先(見学会) 電話 080-5612-6344 (佐藤) メール hiyoshidaichikagou@gmail.com
 (会計) 亀岡敦子：〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15 電話 045-561-2758
 (その他) 喜田美登里：横浜市港北区下田町 2-1-33 電話 045-562-0443
 ホームページ・アドレス：<http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口二千円以上
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921
 代表 阿久澤 武史 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 日吉台地下壕保存の会運営委員会